



COMPASS5.0再生可能エネルギー分野(風力)シンポジウム「未来の風向きを 変える 洋上風力発電の今とこれから～COMPASS5.0 次世代のエネル ギーの将来と人材育成を考える～」を開催しました

秋田高専は、令和7年3月25日(火)に東京都内でCOMPASS5.0再生可能エネルギー分野(風力)のシンポジウムを国立高等専門学校機構、函館高専、八戸高専との共催により開催しました。

基調講演として、洋上風力発電の人材開発を高専と協力して推進する一般社団法人海洋産業研究・振興協会の代表理事である青山伸昭様(洋上風力人材育成推進協議会副会長)より、日本における洋上風力発電の稼働状況や、洋上風力人材育成についての展望などについてご講演いただきました。

また、経済産業省資源エネルギー庁から、省エネルギー・新エネルギー部新エネルギー課風力政策室室長補佐の落合悠人様にご登壇いただき、国が実施する洋上風力政策の現状と今後について、洋上風力サプライチェーン形成に向けた取り組み例や今後予定している様々な支援事業の紹介を交えながら説明をいただきました。

地元自治体を代表しては、秋田県産業労働部のクリーンエネルギー産業振興課長である三浦均様より、洋上風力発電の建設が進む秋田県における洋上風力発電人材育成推進計画でのこれまでの取り組みと、洋上風力産業拠点形成の成果等について説明いただきました。

函館高専・八戸高専・秋田高専からは、令和6年度の再生可能エネルギー分野(風力)人材育成の取り組みをご紹介申し上げるとともに、先行して進められているCOMPASS5.0蓄電池拠点校の新居浜高専より、蓄電池分野の人材育成事業の取り組みをご紹介いただきました。

引き続き行われたパネルディスカッションでは、産業界、行政それぞれの立場から高専に求める人材像について「物事の本質を考える能力が重要である」「幅広い知識が求められる中、様々な立場の関係者をつなぐ対応力も求められる」「風力発電建設においては地元関係者との合意形成が非常に重要であり、対応できる力が必要」など、今後の事業の進め方について具体的な意見を行うことができました。

当日は、産業界、行政、高専・大学等から62名にご参加いただき、配信でも100名を超える方に視聴いただきました。

参加者へのアンケートでは「産官学の専門家による説明で人材育成の取り組みについて理解が深まった」「産官が高専に対して期待することを知ることができた」「高専の人材開発プログラムに期待する」といった意見が寄せられました。

秋田高専は、関係の産業界の皆様、国・自治体の関係の皆様と協力して、(独)国立高等専門学校機構、函館高専、八戸高専とともに風力発電をテーマとして人材育成を進めてまいります。

令和7年度も、このような形で我々の事業の進捗状況をご報告申し上げ、ご指導を頂く機会を設ける予定ですので、ぜひともご参加いただきたく、お願い申し上げます。

